

# 新型コロナウイルス感染症 PCR検査等について

保健総務課

# (検査系の業務概要)

- 1 感染症検査：  
新型コロナウイルス（診断用、変異株）、腸管出血性大腸菌 等
  - 2 食中毒疑い及び苦情検査：微生物検査 等
  - 3 食品等の行政検査：細菌・理化学検査 等
- \* 感染症及び食品衛生等に係る検査体制を強化するため、令和3年5月に地方衛生研究所全国協議会に加入した。
  - \* 地域における科学的かつ技術的に中核となる機関として、関係機関と緊密な連携の下に、調査研究、試験検査、研修指導及び公衆衛生情報等の収集・解析・提供を行い、市民の健康維持、増進に努めています。
  - \* 協議会に加入したことにより、新型コロナウイルス検査試薬や検査方法等の情報の早期入手が可能となった。

# 新型コロナウイルス感染症 検査体制の推移

- ・ 令和元年度 市独自に診断用PCR検査を導入
- ・ 令和3年度 市独自に変異株PCRを導入

R2. 3. 11

診断用PCR検査開始

デルタ株等が推定可能に

R3. 4. 12

N501Y変異検出検査開始

R3. 5. 20

E484K変異検出検査開始

R3. 6. 11

L452R変異検出検査開始



# 変異株PCR検査の効果

- \* 変異株PCR検査結果は、診断用PCR検査後、同日に判明する。
- \* 変異株の種類について判別推定ができる。
  - 市中感染の早期段階においては、感染拡大防止のための封じ込めが可能となる。
  - 市民に対し、早期に感染拡大防止の注意喚起等を実施することが可能となる。

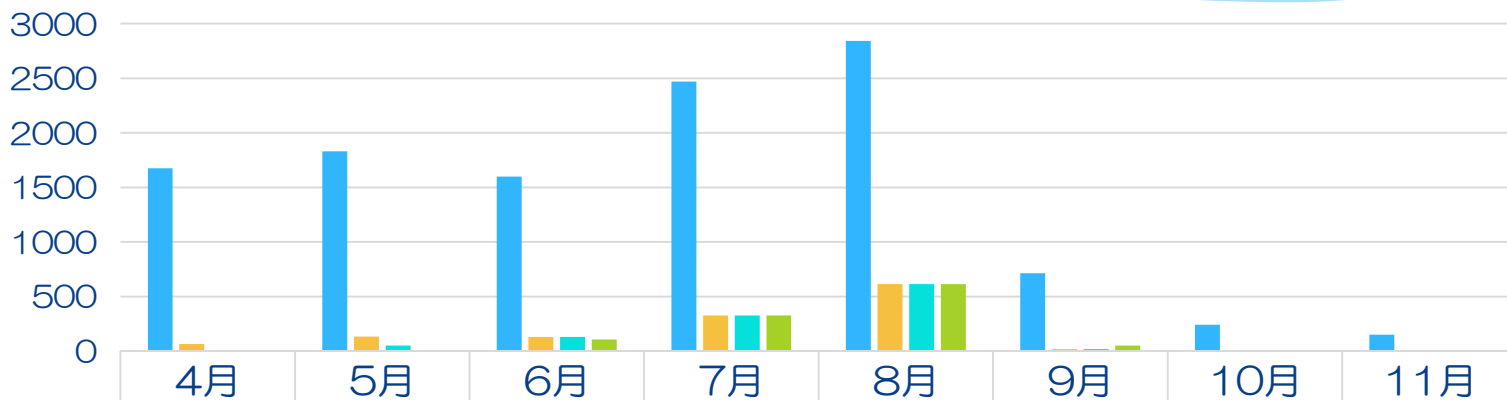
# 懸念される変異株（VOC）

WHOの呼称	Sタンパクの主要変異	感染性	重篤度	ワクチンの有効性
ベータ	N501Y E484K	上昇	上昇	発症：減弱 重症化：不変
ガンマ	N501Y E484K	上昇	上昇	不明
デルタ	L452R	上昇	上昇	発症：減弱 重症化：不変
オミクロン	30か所程度	上昇	不明	発症：減弱 重症化：不明

国立感染症研究所

感染・伝播性の増加や抗原性の変化が懸念される新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)の新規変異株について(第14報)  
SARS-CoV-2の変異株B.1.1.529系統(オミクロン株)について(第3報)

# 今年度の実績 (4/1~11/30)



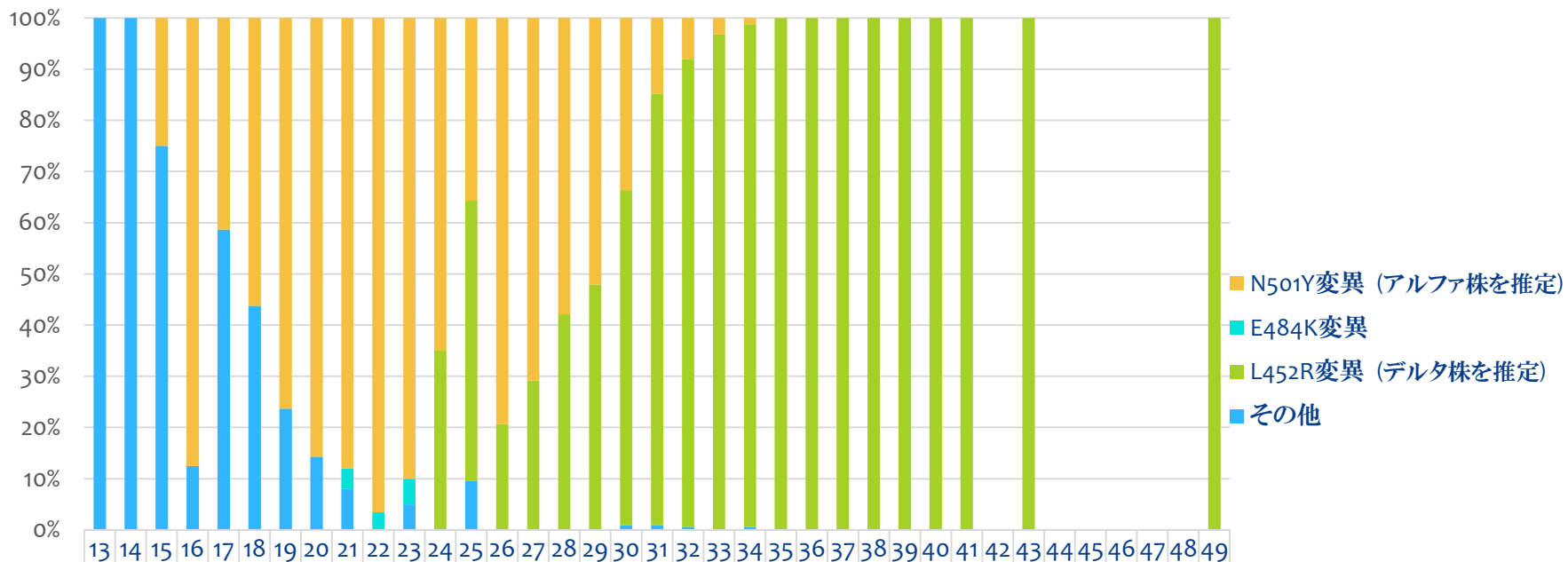
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
■ 診断用	1676	1831	1598	2471	2843	714	240	151
■ N501Y変異	65	132	130	325	615	18	0	3
■ E484K変異		51	130	325	615	18	0	3
■ L452R変異			107	325	615	50	2	3

■ 診断用 ■ N501Y変異 ■ E484K変異 ■ L452R変異

検査員数	11	12	12	12	12	12	12	9
------	----	----	----	----	----	----	----	---

# 変異検出検査実績 (3/27~11/30)

## 週ごとの検出割合の比較



	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	
N501Y変異	0	0	1	7	12	18	29	24	22	28	18	13	15	23	17	22	25	39	17	13	7	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
E484K変異	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
L452R変異	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	23	6	7	16	23	76	97	14	21	16	59	25	20	11	4	1	1	0	1	0	0	0	0	0	3	
その他	4	2	3	1	17	14	9	4	2	0	1	0	4	0	0	0	0	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

# 今後の取り組み①

オミクロン株等の変異株の流行状況に応じて、必要な変異株PCR検査を行っていく。

検査結果を用い市民に対し注意喚起を行っていく。



## 今後の取り組み②

令和4年2月からゲノム（遺伝子）解析用機器である次世代シーケンサーを導入し、ゲノム解析を開始する。

新たな変異株が報告された際、当該変異株に係るPCR検査手法が開発されるまでの間は、ゲノム解析により当該変異株を確定していく。

また、患者の行動調査等の疫学調査に加えその科学的根拠としてゲノム解析を利用することで、より詳細な感染経路の推定が可能となる。早期にクラスター対策等のためのゲノム解析を行うことで、感染拡大防止のための封じ込めが可能となる。

ゲノム解析を自施設で実施し結果を判明させることで、市民サービスの向上を図っていく。